

(討論会はさておいて、大統領選の行方はこの1週間大きく変わっていません。フロリダ、コロラドがロムニー候補が勝てる州の中に入って、現時点ではロムニー候補は獲得選挙人数を244人まで増やせる勢いです。しかしオハイオ、バージニア、ネバダ、アイオワ、ニューハンプシャーなどの接戦州は、最新の一連の世論調査結果を見る限りでは依然としてオバマ大統領が勝てる州の中に留まっており、この1週間大きな動きがありません。ただしロムニー候補が逆転にまであと一步に迫っていることは確かで、特にバージニアは、最新の5種の世論調査のうち最も新しい3種の調査結果はすべてロムニー候補の方が高い支持を獲得しています。バージニアを取れば、ロムニー候補の獲得できる選挙人数は256人になります。マジックナンバーの270人まであと14人で、それを可能にするのはオハイオ(選挙人数18人)です。

しかし、このオハイオがロムニー候補にとっての問題です。過去2週間に少なくとも7種の同州内世論調査がおこなわれていますが、そのうちの5種の調査はオバマ大統領が1%から最大6%の差でリードしているとの結果を出しています。第1回討論会直後に行なわれた2種の調査だけはロムニー候補が僅か1%の差でリードしたとの結果を出しましたが、10日以降に行なわれた3種の世論調査はすべてオバマ大統領のリードに戻っています。PPPの調査では5%の差、比較的共和党に公平なラスムッセンの調査でも1%の差でオバマ優位です。この中西部工業州のオバマ支持は相当に頑固であり、今のトレンドが続くとロムニー候補は勝てません。ここが勝てないと、ロムニー大統領誕生もあり得ません。

「3プラス1(フロリダ、オハイオ、バージニアとあと1州)」のうち、オハイオだけが未だにロムニー候補の勝利の可能性が見えてきていない州で、ロムニー候補は今後2週間はこの州に最大のリソースを注入しなければなりません。ロムニー選挙委員会の戦略を見てみると、ここがもうひとつ確信できません。バージニア、フロリダでのキャンペーンは良いとして、ロムニー候補をノース・カロライナに送ったり、ライアン副大統領候補をウィスコンシンやニューハンプシャーに送ったり、といったことを未だやっています。ウィスコンシン、ミシガン、ペンシルバニアなどの州は差は縮まったかも知れないが、この2週間に3州で行なわれた16種の世論調査でロムニー候補がリードしているという結果を出したものはゼロです。例えウィスコンシンで勝ってもオハイオで勝てなければロムニー大統領誕生はありません。ニューハンプシャーもアイオワもネバダも同じことです。ロムニー候補の勝利への道は極めて狭く「3プラス1」しかないのに、ロムニー選挙委員会の選挙戦略は未だそこに完全に絞られていない感じがあります。戦後の大統領選で、オハイオ州を取れなかった共和党候補で大統領に当選した人はありません。今度の選挙ではこれまでも増してこのオハイオが大統領選の勝敗を決める鍵となりつつあります。あと2週間半でオハイオの勝利が見えてきたら、ロムニー候補の当選を予想することが可能になりますが、そうでない限りはオバマ大統領再選を覚悟しなければなりません。)